

会報

VOL.14



# 波止場町便り

2025年6月30日発行

## 記憶される港の風景

(その6)

港町神戸の「ハイカラと愛」



## 記憶される港の風景(その6)

### 1. 港町神戸の「ハイカラと愛」

神戸港も開港から、150年が過ぎている。海外に開かれた港としては長崎、横浜に続くものである。3港に共通するイメージは国際港都、エキゾチック、ハイカラ、中華街、貿易港などだが、1923年の関東大震災以降は、東西日本の玄関港として横浜と神戸に役割が集中していくこととなる。とりわけ神戸港は明治29年に日本郵船の欧州航路第一船の入港以前から西洋文化が持ち込まれただけでなく、居留地に外国人が定住する事によって文化が地に着くものとなっていく。その定着度の例として洋服に関する記事が、1989年の神戸市制100年記念・神戸新聞特集号に『作家の村松友視さんが数年前に三ヶ月ほど神戸に滞在していたことがある。鋭い人間観察家でもある村松さんは、神戸を去るとき、次のような感想を漏らした「神戸の山の手の坂道で信号待ちしていると、向こうから初老の紳士が坂を下ってくる。その洋服を見て、日本人しかも男性がこれほど洋服を違和感なく着こなしているのか、とハッとさせられましたよ」として掲載されている。村松さんは明治元年にドイツ人が来神し、洋服商會を設立して以降の歴史を、市井の中に見たのである。

『会報』12号、13号で、作家司馬遼太郎の「神戸の人間で神戸を嫌いな人間は一人もない」「ハイカラで自由な神戸ーやさしい心根の上に立った美しい神戸が、世界に一つだけの神戸が、きっとこの灰燼の中からうまれてくる」という希望を紹介しながら、実はどうして司馬はそう言えるのかと考えてきた。「ハイカラで自由な神戸」「神戸を嫌う人間は一人もない」という無評価さは、どうしても司馬らしくないという思いを払拭出来なかったからである。先ずはハイカラである。今日ではこの言葉は死語である。『ハイカラさんが通る』という漫画を原作としたドラマがあったが、時代背景はガス灯とカフェの灯に象徴される大正モダニズムであろう。1992年の朝日新聞『文学の風景・兵庫探訪一稲垣足穂』の中で、足穂研究家赤井俊夫氏は「当時のハイカラというのは、どこか得体が知れず、近付きがたいムードを持っていたと思う。それがまた神秘的で、タルホの空想をかき立てたのでしょうか」と述べている。モボ・モガは明るいイメージで、司馬のいうハイカラに近いとも思うが、「旧居留地、トアロード、異人館といった当時の神戸の町並みは、タルホの幻想的で浮世離れた物語のかっこうの舞台装置」となったのは、「ハイカラの力」と理解したい。



①六甲山でスケートをする4人(1935年ごろ) ②神戸・元町でサイドカーに乗った男性(1925年) 川いずれも神戸展実行委提供

もう一つの問題、「神戸愛」について触れておきたい。「構造と力」の著作で有名な浅田 彰は神戸生まれの京都育ちである。先に挙げた神戸新聞の特集号で「ふるさととは、と聞かれたら神戸と答えますよ。港町の開かれたふわっとしたところが最大の魅力だと思う。」「いま日本中で『国際化』論議。大阪が国際都市を目指している取り組みに躍起だが、神戸は日本の中では最も足が地に着いている」。そして、都市は人をどう迎え、いかに対応すべきなのかという質問に対して「熱心なお店ってあるでしょう。客が入ると店員が寄ってきてあれこれと…。日本のもてなしはちょっと過剰なんですよ。優しい無関心、という対応がほしいんだな」と、答えている。また、神戸っ子で「暮らしの手帖」の編集長で有名であった故花森安治さんの「他人のような顔をした街」というエッセーも取り上げている。「この町は、いつ来ても他人のような顔をしている(中略)ほかの町とちがうところが一つだけある。この町(神戸)のことを、どんなにぼろくそに言っても、一向に痛くもかゆくもないふうで、知らん顔をしていることだ。ほかの町は、どうやらちがうらしい。二つ三つの町の拝見記を書いた。見たままをハッキリ書いたつもりだった。ところが、向こうでは、えらく怒っているという。なぜだと聞いたら、ふるさとをわるくいわれたら、だれでも怒るのだそうである。しかし、ぼくは神戸のことを、どんなにいわれても腹は立たないがねえ、といったが、これは通用せんのだそうである」。記事は「神戸ほど『ふるさ

と』という言葉が似合わない街もないだろう。花森さんに『他人のような』と言わせたのは、平たく言えばお国意識の欠如でもある」。そして『神戸の光と影』の著者である中井久夫氏の「住みよい街ですよ、と神戸の人が言うのはお国自慢とは全く異質なものである」と言わせることで、「神戸愛」の重層的秘密の一端を垣間見せているのである。

## 2、港町神戸と、「世界にただ一つの波止場町」

東京は世界屈指の大都会である。東京から移住する人で、大阪のような大都会を目指すものは多くないだろう。自然豊かな場所に向かうか、海の近くに向かうか。北海道や沖縄が人気を集めているのは至極当然である。大震災以降、神戸市の人口は回復していない。神戸の街は震災の爪痕を感じさせないほど復興しているし、近年ではウォーターフロント計画としてベイエリアに集客施設が次から次へと建設されている。しかしそれは観光客を対象にしたもので、神戸市民が憩える場所とはいいいがたい。神戸に住み、暮らしていくうえで神戸の魅力を確かめる事も必要である。

神戸の魅力とは気候的に住みやすく、飲食環境が豊かであること。そして、中都市としての利便性に優れていることである。大都市は全ての社会的要素を備えているが、所詮は小都市、中都市の寄

せ集めであり、スケールメリットに長けているが、都市生活の一体感は薄く、距離感は疎遠である。他方で過疎地は生活基盤自体が整っておらず、若年者は対応できるとして、高齢化するほど独自生活がしがたくなっていく。神戸は「温かくてあっさりした街」「優しい無関心ー適度な距離感」を備えた都市であり、同じ中都市としての京都と比較しても、その距離感において開放的都市である。その最大の条件が、六甲山を背景として海に向かう地形にあり、唯一無二ともいえる。海からも山からも風が吹いてくるのである。50年以上前の京都でのイベントのチラシにはよく短冊形で「とおりぬけられます」と書き込まれていた。逆説である。いや、願望であったかも。神戸から京都にとおりぬける風は、アンビバレンスである。

そして、「波止場町通」である。メリケンパークも新港ベイエリアも確かに美しく整備されたが、史跡としての価値はあるものの、どこにでもある一般的なものになっていくであろう。「波止場町」には現在も港湾運送事業者が事務所を維持しており、港の職業安定所も存在している。

「波止場町通」は労働力供給基地であった過去と複数のホテル・複数のライブハウス、港湾労働者専用住宅などが現在に混在する、特異な「世界にただ一つの神戸」でもある。

(磯田 和男)

## 第11回通常総会

### 第11回通常総会終了のご挨拶 (決議のご通知に代えて)

会長 青井基洋

拝啓 向暑の候、会員の皆さまにはますますご清栄のこととお慶び申し上げます。

平素は、本協議会の運営に多大なご協力を賜りまして、厚く御礼申し上げます。

さて、昨日神戸市立まちづくり会館において、20名の会員出席を得て、第11回通常総会が開催され、下記の通り各議案にご承認をいただきましたのでご報告いたします。

つきましては、決議内容は以下の通りとなりました。

(決議の内容・ご通知)

#### 第1号議案 令和6年度の事業内容及び活動報告 承認の件

令和6年度は、X'mas&忘年イベントの開催も大盛況の内に終え、月例交流会も継続的に開催され、会報も年4回の発行と、各事業を通常通り行うことが出来ました。また、会員の異動状況は入会者2社(リリー企画・SORA)、退会者1社(木下商会)で、現会員数は27社であること等の詳細な活動報告があり、承認されました。

#### 第2号議案 決算報告及び監査報告並びに決算(案) 承認の件

「令和6年度決算報告及び監査報告」に基づき詳細な報告があり、承認されました。

なお、令和6年度の決算は52万円余の剰余金を得て、来年度への繰越金は200万円余となっております。

### 第3号議案 役員選任の件

2年ぶりの役員改選の時期となり、議案書の原案通り再任が承認されましたが、宮内理事より社内事情により岩下元氏に変更したいとの申し出があり了承され、役員を選任は以下の通り承認されました。

- 会 長 青井基洋（再任）  
副会長 永田雄一郎（再任）・今田晶博（再任）・  
宮本亮（再任）・佐藤徹（再任）  
理 事 磯田和男（再任）・土井亮（再任）・  
内野洋介（再任）・丸田将吾（再任）・  
片岡行雄（再任）・岩下元（新任）  
監 事 服部一郎（再任）・居城正明（再任）

### 第4号議案 令和7年度の事業計画（案）承認の件

本年度は、議案書記載の11項目の中から、特に以下の4項目を重点項目として取り組みます。

- ①記念碑パネル3枚を自己資金で増設する（費用100万円程度）とともに、同時に、波止場町通りエリアの街づくり

を、活動の原点に立ち返って、皆で意見を出し合い検討し、進めていくこと。

- ④写真集を市内学校（小中高）及び公立図書館に無料配布（500冊）すること。  
⑤⑥会報・ホームページについては、充実させるとともに、協議会から外部への発信を強化すること。  
⑩会員増加、今後積極的に協議会の趣旨に賛同して、活動に参加していただける方を増やしたい。  
本年度は5社の新会員の増加を目指すこと。  
上記の各項目について、詳細な説明があり、承認されました。  
今後役員会、月例交流会等で再度詳細な協議を重ね、会員の皆様とも情報を共有して、実行していきます。

今後とも、会員の皆様との親睦を深め、議論を重ねながら、「波止場町通まちづくり協議会」の活動を進めて参りますので、「協議会」の運営にご協力、ご支援を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

敬具



## 会 員 一 覧

- 株式会社メイフェア
- 全港湾神戸弁天浜支部
- 昌栄運輸株式会社
- 住井運輸株式会社
- 株式会社アベストコーポレーション
- 株式会社クリアス
- ニッケル.エンド.ライオンズ株式会社
- 株式会社住友倉庫 神戸支店
- 兵庫県信用組合本店営業部
- 甲陽運輸株式会社
- 早駒運輸株式会社
- 株式会社アテネエンタープライズ
- 二和興業株式会社
- 株式会社ユニオンエージェンシー
- 株式会社ハイファイブ
- 株式会社KDS
- 株式会社ラスイート
- 合同会社リリー企画
- 商船港運株式会社
- 中央港運株式会社
- 株式会社SORA
- A&D MUSIC
- 上津港運株式会社
- 株式会社パワーステーション
- 神菱港運株式会社
- 走水神社

（順不同）